

富山県
神社庁報

かわら版

平成二十五年六月三十日発行
発行所 富山県神社庁
編集 教化委員会広報部会

青壮年のための 伊勢の神宮参拝の旅



豊受大神宮での記念撮影

去る二月二十三日（土）～二十四日（日）の一泊二日の日程で第二回「青壮年のための伊勢の神宮参拝の旅」を実施した。

本企画は「日本を代表する伊勢の神宮に、社会の中心的世代である青壮年の方々と共に参拝し、これからの日本を支えていく決意をあらたにし、たい」との願いから、昨年度に引き続きの開催となった。

尚、昨年度の第一回は真夏であり、スーツ着用となる御垣内参拝などで苦慮したため、諸条件を勘案して二月の開催となった。

特に外宮では平成二十四年四月に開館したばかりの「式年遷宮記念 せんぐう館」を見学。特に「遷御の儀」に使用される「菅御笠」の製作工程展示の前では、富山県高岡市福岡町産の菅であることを説明し、富山県と伊勢の神宮とのつながりの紹介によって、参加者からはより神宮に親しみが持てたとの声が聞こえた。

また昨今の内宮参拝者数の著しい増加を考慮し、御神楽奉奏は外宮の神楽殿とした。これにより、混雑が予想される祈待合時間のロスが無くなり、さらには内宮での長時間滞在を軽減出来、参加者からも好評を得た。

神宮奉賛部会 嶽 徹 記

第十二回 親子で行く

伊勢の神宮参拝旅行

去る平成二十五年三月二十三日（土）～二十四日（日）、一泊二日の日程で、

神社庁主催「第十二回親子で行く伊勢の神宮参拝旅行」を教化委員会神宮奉賛部会主管により行った。

本年は「作文コンクール」「写生大会」優秀賞の招待者を含む、小人十六名、大人二十九名の総勢四十五名の参加があった。

二十三日早朝よりバス二揺られ、東海北陸道・伊勢自動車道で伊勢へと向かった。車中では、DVD「伊勢コッコのお伊勢まいり」を放映し、長谷川部会員がユーモアたっぷりの飽きさせない内容で神宮、御遷宮について参加者に説明。子供も親も興味深く聞き入っていた。神宮では、先ず外宮の御垣内参拝・御神楽奉納、続いて内宮の御垣内参拝を行った。参加者は一様に初めての御垣内参拝に神妙な面持ちで、感銘を受けていた。特に、御神楽の奉納では、厳肅な雰囲気の中、子供たちも行儀よく坐っていた。

参拝後は、おかげ横丁散策で、時間は短めではあったが、相応に「平成のおかげ参り」の雰囲気味わったようだった。翌二十四日、ナガシマスパーランドはみんな楽しみにしていたところでもあり、湯あみの島も合わせて存分に楽しんだようだった。

本年度はリピーターの参加者が少なく、次年度はより多く参加頂けるよう案内を促していきたい。

参加人員 四十五名

（大人）二十九名、（小人）十六名

※内招待者六名、スタッフ三名

神宮奉賛部会 浦 泰宏 記



宇治橋前での記念撮影



皇大神宮へ参拝

第七回 親と子のひな祭り

第七回「親と子のひな祭り」が二月二十八日に富山市下大久保(旧大沢野町)の大久保幼稚園(園児八十九名)で開催されました。

当日の天候もよく暖かな日だったので百名程の親御さんが見にこられました。始めに開会にあたり藤井教化委員長より「ひな祭り」に於ける歴史的意味や親の子に対する願いを説明致しました。そ



ひな祭り 記念撮影



先生から記念品を受け取る園児

して装束を着けたお父様方、男女職員の方々が登場すると大きな歓声と共に大変な盛り上がりでした。恒例の雅楽部による「うれしいひな祭り」の演奏があり、楽器の説明の後、質問タイムでは児童より多くの質問があり、興味津々な様子でした。そしておひな様の方々に園児よりお礼のお遊戯「百パーセント勇氣」がありました。

最後に氏神社より林貞文禰宜の講話とお礼の言葉があり、無事に行事を終えることができました。今後もこの活動より「親が子の成長を無事祈る気持」「子の親への感謝の気持」を育てたいと思います。

青少年対策部会長 平尾 智胤 記

第二十九回 小学生作文コンクール表彰式

去る三月九日(日)、富山市山王町日枝神社において第二十九回小学生作文コンクールの表彰式が開催されました。

今回は、県内二十九校・百五十八作品の応募があり、特別賞五名、金賞五名、銀賞十名、銅賞十名の計三十名が表彰されました。当日は受賞者と保護者の方が約八十名出席され、特別賞は平尾旨明副庁長より、金賞以下は藤井秀嗣教化委員長より賞状・メダル・記念品が授与されました。

中でも高岡市立万葉小四年 高橋蘭さんと、富山市立新庄小四年 新村奈都美さんのお二人は昨年に引き続き二年

連続で特別賞に輝くという、素晴らしい結果を残されました。



特別賞の伝達

来年度のコンクールは、第三十回の節目となります。一層充実したコンクールとなるよう期待します。

教学部会長 高倉政憲 記



表彰式の風景

第八回 教養研修会

平成二十五年三月二十六日(火) 研修所主催「第八回教養研修会」を、立山カルデラ砂防博物館において同学芸課菊川茂先生を講師として開催し、神職を始め十七名が参加致しました。

第一講は同博物館映像ホールにて、立山カルデラ砂防工事についてご講義を賜りました。立山カルデラは、火山活動と浸食作用による独特の自然をもつ日本でも有数の大規模崩壊地であり、立山の自然史を解くために重要な地域でもあります。これまで度々崩壊しては、内部に土砂をため、大雨の度にその土砂が常願寺川流域に流れ出して度重なる土砂災害をもたらしてきました。そのため、これま

で百年もの間日本屈指の砂防事業が進められており、現在も富山平野に暮らす県民の命と財産を守っています。

第二講は「立山カルデラの自然と歴史」及び「砂防」について、展示物にご説明頂きました。また特別企画展においては、日本初の現存する「氷河」であると学術的に認められた立山連峰の三つの万年雪、すなわち剣岳の三の窓雪溪・小窓雪溪、立山の御前沢雪溪について、氷河とは何か、万年雪との違いを始め、実際の調査の様子やクレバスの大型模型を交えて詳しく解説を賜りました。

この研修を通じて、自然の猛威に対する砂防の重要性を改めて認識し、今も動く立山、知られざるもうひとつの立山を学びました。

研修部会長 炭谷 淳 記



ひな祭りでの雅楽演奏